

能代市東土地改良区

受益面積 747ha

- 能代市東土地改良区は米代川の北岸・南岸に広がる受益地を有する土地改良区である。
- 北岸側は常盤川、久喜沢川などの米代川支流から取水する。
- 南岸側は檜山安東氏の居城であった檜山城址の麓の檜山川や米代川本川から取水する。



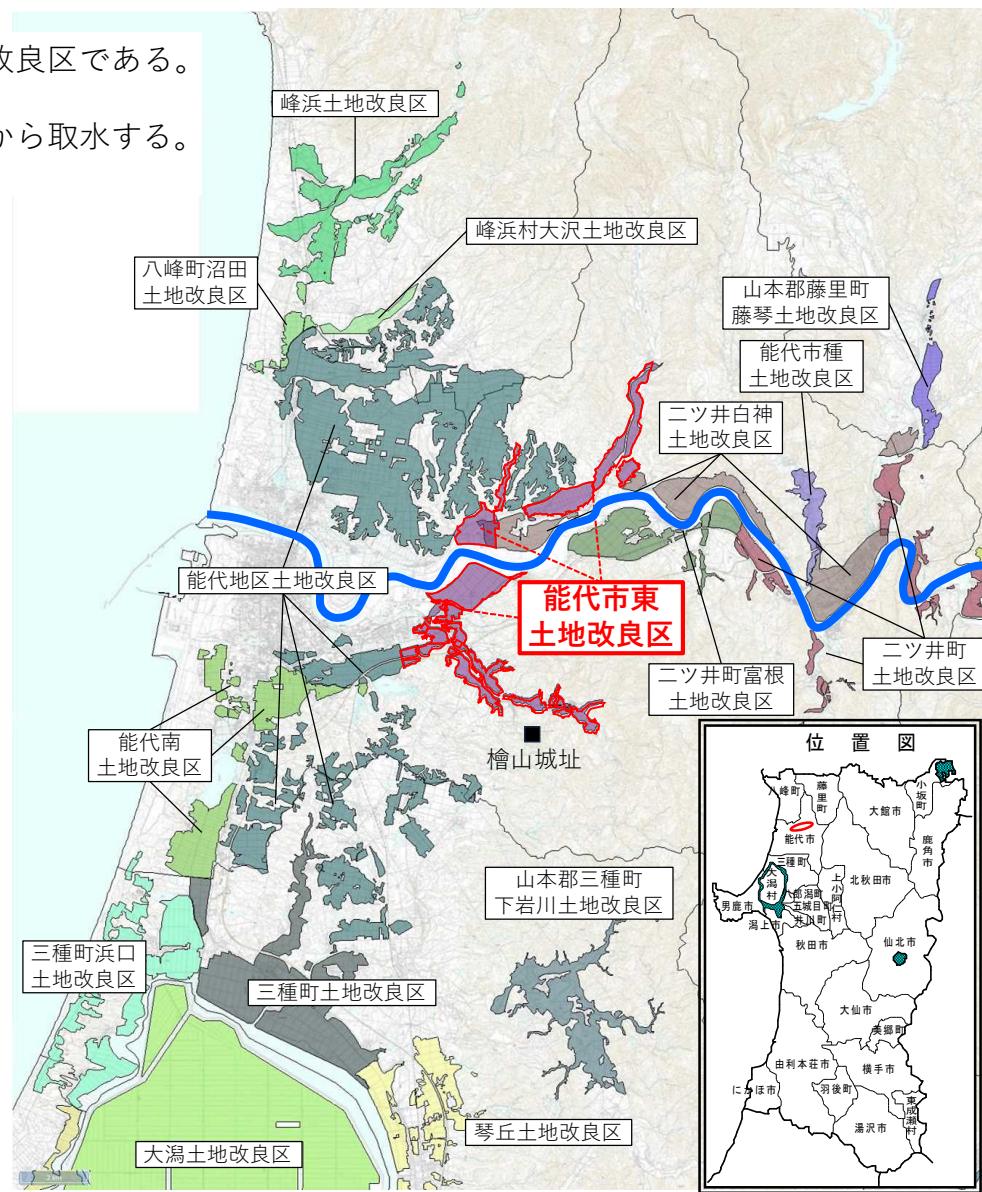
檜山城址から桧山地区の受益地を望む



鵜淵頭首工

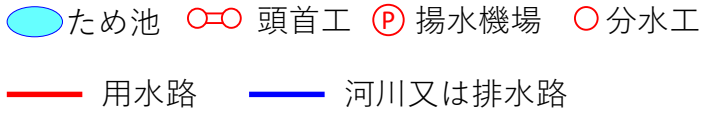


檜山城近傍の多宝院



【内 容】

- 工区の構成
- 農業水利システムの全体概要①（米代川北岸）
 - ・（各施設の状況）常盤本郷工区：ため池
- 農業水利システムの全体概要②（米代川南岸）
 - 【用水系統】桧山工区：下堰・小鎌谷地頭首工掛かり
 - ・（各施設の状況）鰯渚工区：ため池・頭首工・水路等
 - ・（各施設の状況）鶴形工区：ため池
- 地域の歴史的施設（桧山工区）：檜山城跡・多宝院
- 施設の維持保全
- ほ場整備

作 成	秋田県 農業農村整備等技術検討委員会 秋田県山本地域振興局農村整備課
協 力	・ 能代市東土地改良区 ・ 能代市 ・ 秋田県土地改良事業団体連合会
作成経緯	ver. 1.0 令和 7 年 3 月
基本凡例	  ため池  頭首工  揚水機場  分水工  用水路  河川又は排水路 ※ 資料作成の都合上、必ずしもこれらのとおりの表記となっていない場合がある
出 典	・ 秋田県水土里情報システムのレイヤを使用したものは次のとおり 地形図：「測量法に基づく国土地理院長承認（使用） R6JHs 74-GISMAP59536号」 航空写真：「© NTT InfraNet, JAXA」 衛星写真：「© NTT InfraNet, Maxar Technologies.」 ・ その他土地改良区提供資料など
備 考	本資料は、秋田県の農業を支える基盤であり、地域資源でもある農業水利施設について、土地改良区毎にその構成、歴史、維持管理等の概略を示し、土地改良区の組合員のみならず地域住民の皆様に対し広く周知するものです。 これにより、各地域の農業水利施設を保全管理することの重要性について理解を深めていただき、農業水利施設の持続的な機能発揮と秋田県の農業の発展の一助となることを目指しています。 本資料については、現地調査に加え、水土里情報システム内の資料、過去に実施した事業の資料、土地改良区からの提供資料、土地改良区からの聞き取りなどをベースに作成していることから、時点が古い情報や現状と比較し正確ではない情報が含まれていることがあります。このため、本資料を閲覧される方に置かれましては、このことを予め御了知いただくとともに、本資料を利用すること等により生じるトラブルや損害等については、秋田県ではその責任を負いかねますので、予め了承ください。

工区の構成 米代川の北岸 3 工区と南岸 4 工区から構成される

- 能代市東土地改良区の受益地は、
 - ・ 米代川北岸：常盤川掛かりの苧橋堰工区、米代川本川掛かりの常盤本郷工区 及び産物工区南部、久喜沢川掛かりの産物工区北部の 3 工区
 - ・ 米代川南岸：檜山川掛かりの桧山工区・扇田工区・鰺渚工区、米代川本流掛かりの鶴形工区の 4 工区
- 桧山工区は室町時代～安土桃山時代にかけて能代から男鹿までの一帯を支配した秋田安東氏の居城である檜山城の麓に位置する。

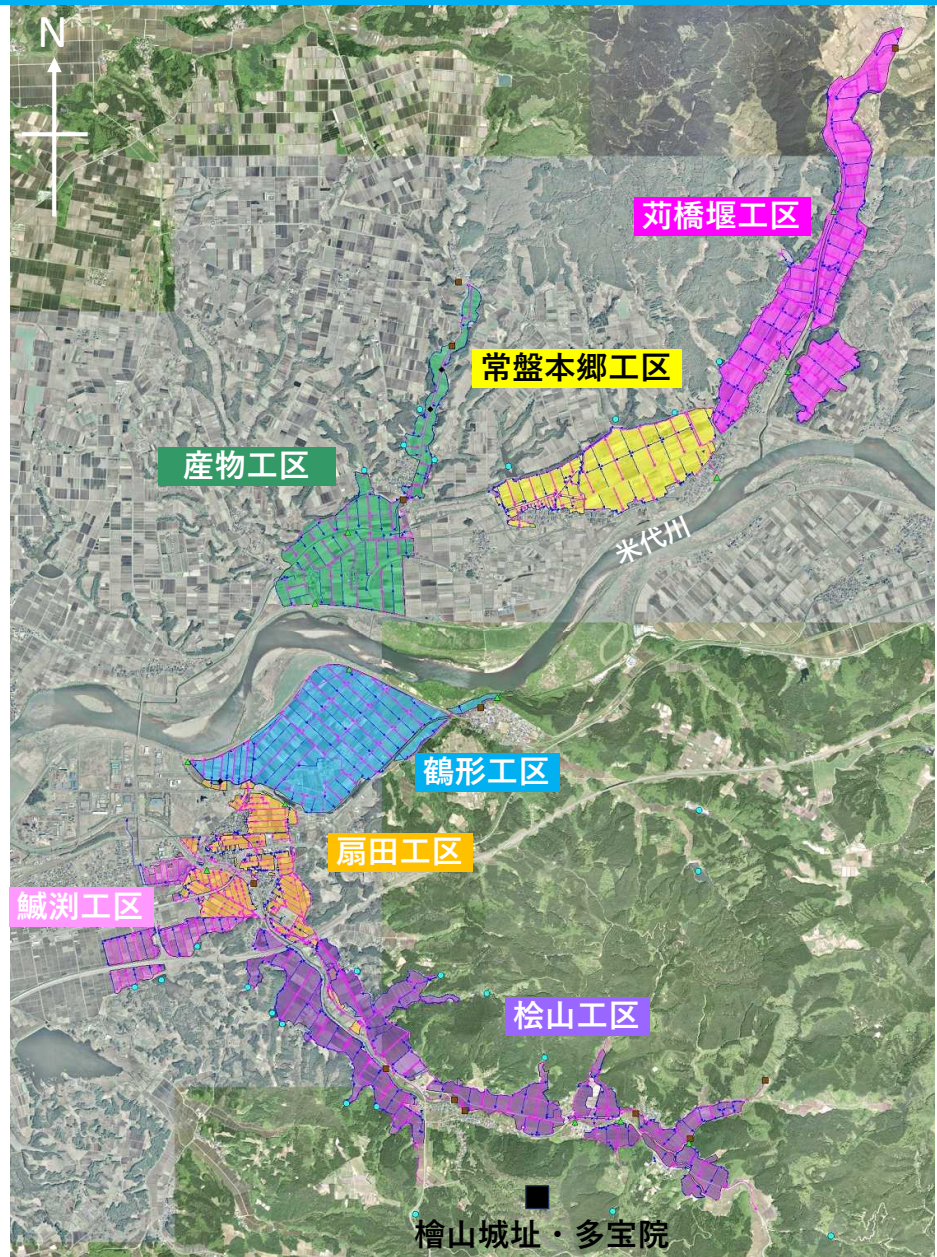
地区名		主要河川	受益面積	備考
北岸	苧橋堰	常盤川	約140 ha	旧 能代市苧橋堰土地改良区
	常盤本郷	米代川	約100 ha	旧 能代市常盤本郷土地改良区
	産物	久喜沢川	約100 ha	旧 産物土地改良区
南岸	桧山	檜山川	約160 ha	旧 産物土地改良区
	扇田	檜山川	約70 ha	旧 扇田水利組合
	鰺渚	檜山川	約40 ha	旧 鰺渚水利組合
	鶴形	米代川	約140 ha	旧 鶴形土地改良区



檜山城址



多宝院

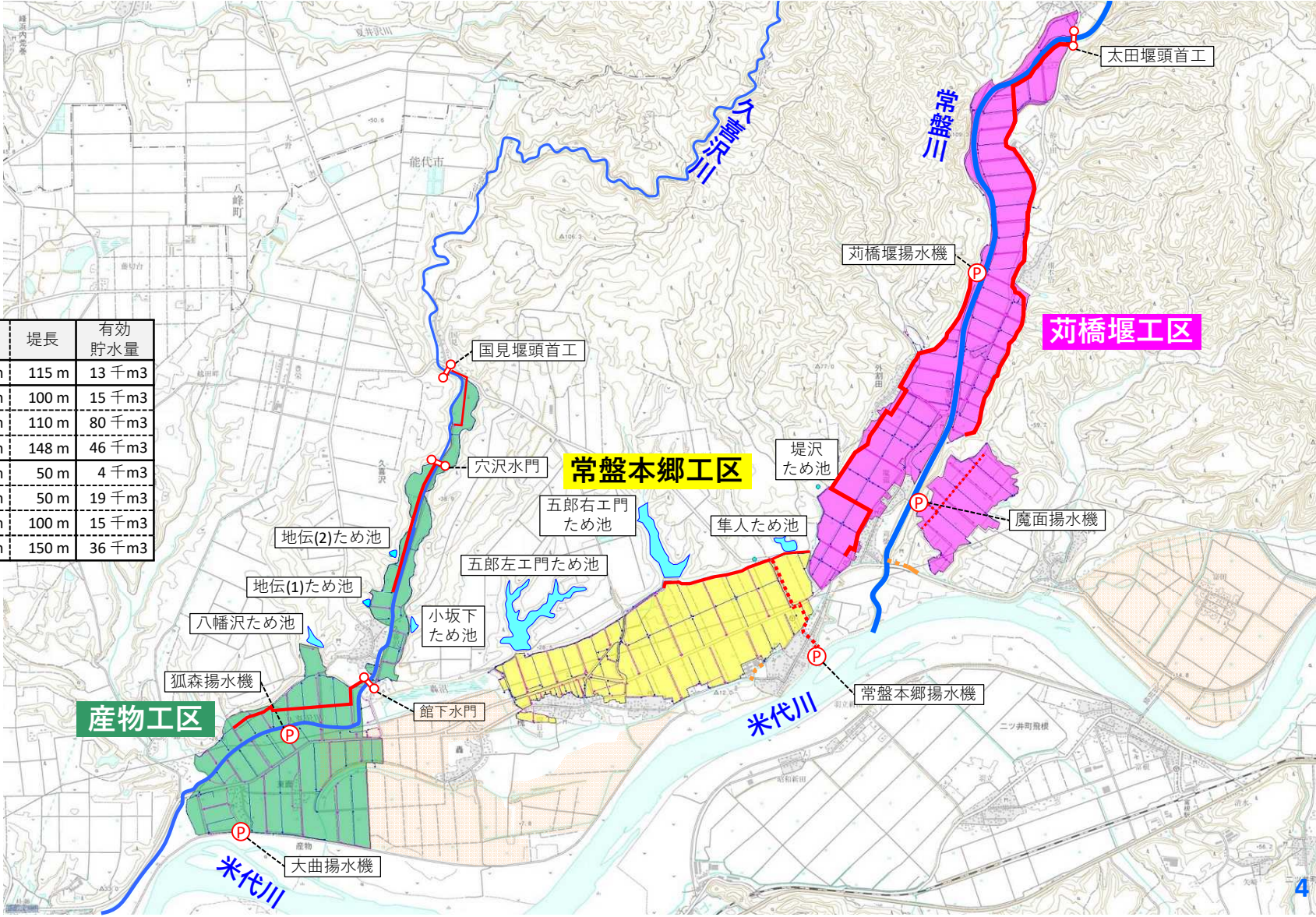


農業水利システムの全体概要①（米代川北岸）

苅橋堰工区・常盤本郷工区・産物工区

- 苅橋堰工区：全体として開水路による供給主導型。ただし魔面地区は末端まで管水路の需要主導型となっている。
- 常盤本郷工区：ため池及び米代川に設置した揚水機場を主水源とし開水路で送配水する供給主導型。
- 産物工区：久喜沢川の頭首工及び揚水機場での取水・開水路送水による重力かんがい。

	名称	堤高	堤長	有効貯水量
苅橋堰	堤沢ため池	4.0 m	115 m	13 千m3
	隼人ため池	3.0 m	100 m	15 千m3
	五郎右工門ため池	5.0 m	110 m	80 千m3
常盤本郷	五郎左工門ため池	3.0 m	148 m	46 千m3
	地伝(2)ため池	5.0 m	50 m	4 千m3
産物	地伝(1)ため池	6.0 m	50 m	19 千m3
	小坂下ため池	5.0 m	100 m	15 千m3
	八幡沢ため池	4.0 m	150 m	36 千m3
	狐森揚水機			



（各施設の状況）

常盤本郷工区

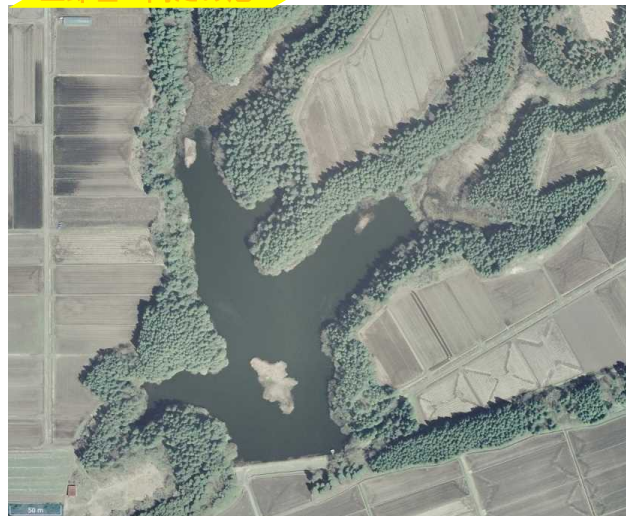
五郎右エ門ため池・五郎左エ門ため池

名称	形式	堤高	堤長	有効貯水量
五郎右エ門ため池	アースダム（均一型）	5.0 m	110 m	80千m3
五郎左エ門ため池	アースダム（均一型）	3.0 m	148 m	46千m3

五郎右エ門ため池

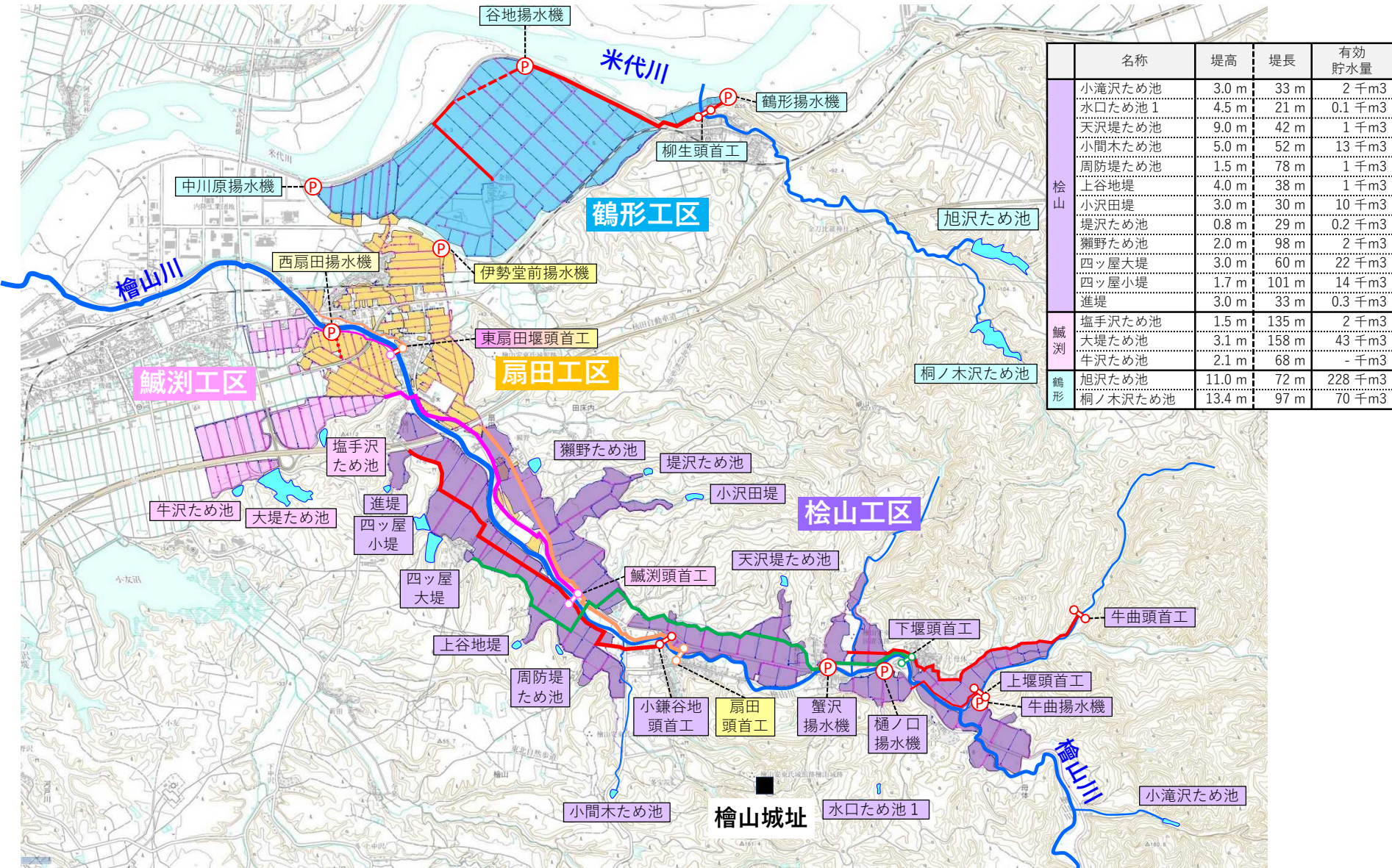


五郎左エ門ため池

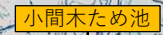


農業水利システムの全体概要②（米代川南岸） 桧山工区・扇田工区・鵜瀨工区・鶴形工区

- 桧山工区・扇田工区・鵜瀨工区：ため池及び檜山川に設置された頭首工で取水し開水路により受益地に送水する供給主導型システム。
- 鶴形工区：ため池からの用水と米代川本流からの揚水を組み合わせ、開水路により地区内に供給するシステム。



- 小鎌谷地頭首工は左岸取水であり、下堰幹線水路と並走しつつ檜山川沿いの受益地に用水を供給する。



(各施設の状況)

鵜渕工区

ため池・頭首工・幹線水路等

大堤ため池

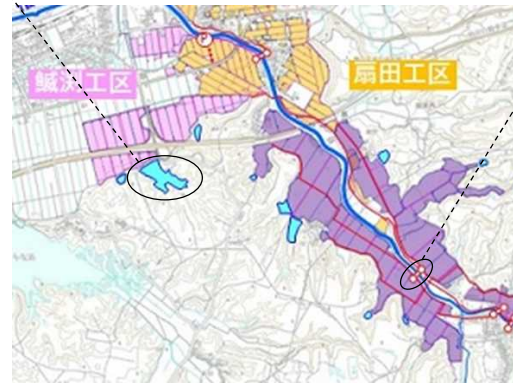
形式	堤高	堤長	有効 貯水量
アースダム(均一型)	3.1 m	158 m	43千m3



大堤ため池



鵜渕頭首工・幹線水路



(各施設の状況)

鶴形工区

旭沢ため池・桐ノ木沢ため池

名称	形式	堤高	堤長	有効貯水量
旭沢ため池	アースダム(均一型)	11.0 m	72 m	228千m3
桐ノ木沢ため池	アースダム(均一型)	13.4 m	97 m	70千m3

旭沢ため池



桐ノ木沢ため池



- 米代川南岸の檜山川上流の桧山工区には、室町～戦国時代に能代から男鹿までを支配した檜山安東氏の居城である檜山城の跡地がある。
- また、近傍には久保田藩時代の佐竹氏の家臣であった多賀谷氏の菩提寺である多宝院がある。

檜山城跡



(・檜山城跡　・大館跡　・茶臼館跡)

所在地／能代市檜山字古城 外

檜山城は、檜山安東氏の本城と

檜山安東氏の起りは、津軽十三湊安東氏が南部氏との争いに敗れて蝦夷島（北海道）に渡り、のちに政季を檜山に入れて出羽国の河北一帯を領されたことにあるという。康政二年（一

つづく尋季、舜季の代、十六世紀前半に、檜山安東氏は下国安東氏の宗家として蝦夷島から津軽に分布する一族を統括し、さらに蝦夷島から若狭にいたる日本海交易の発展にも寄与した。

愛季の子、実季のとき、湊安東氏の嫡流を名乗る道季の離反によって、いわゆる湊合戦が行われるが、実季はこの檜山城に百五十日余の籠城を果たし、ついに反撃に出て勝利した。檜山

しかし徳川幕府の成立によって安東・秋田氏は常陸の宍戸に移され、檜山城には佐竹氏の家臣小場義成が入り、次いで多賀谷氏に交代した。そして元和の一国一城令によって同六年（一

多宝院



■ 平成二年三月二十日指定 ■ 所在地：能代市桧山字小間木五

多宝院は、松山城代多賀谷氏の菩薩寺である。

多賀谷氏が常陸の豪族として勢力を振るって

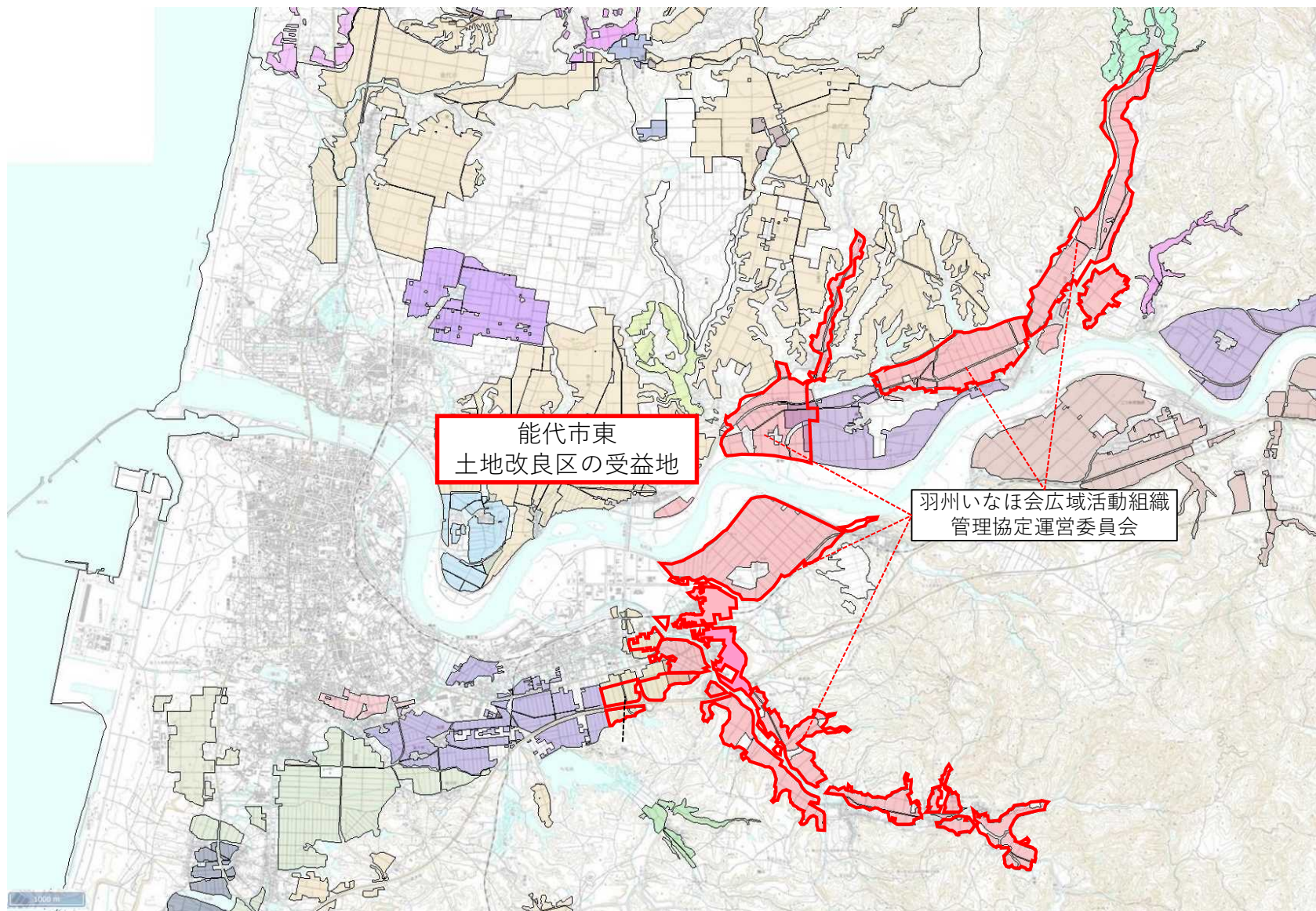
この寺院は庫裏、回廊。禅堂が失われているが、本堂鐘楼、山門が現存して曹洞宗寺院としての伽藍がよく残っている。

鉄板葺きとなっているが、再建当時は茅葺きであった。内部は全面に土縁をとり、その奥に前列四室、後列四室の計八室で構成され、南・北・西端に一間巾幅の入側板縁を

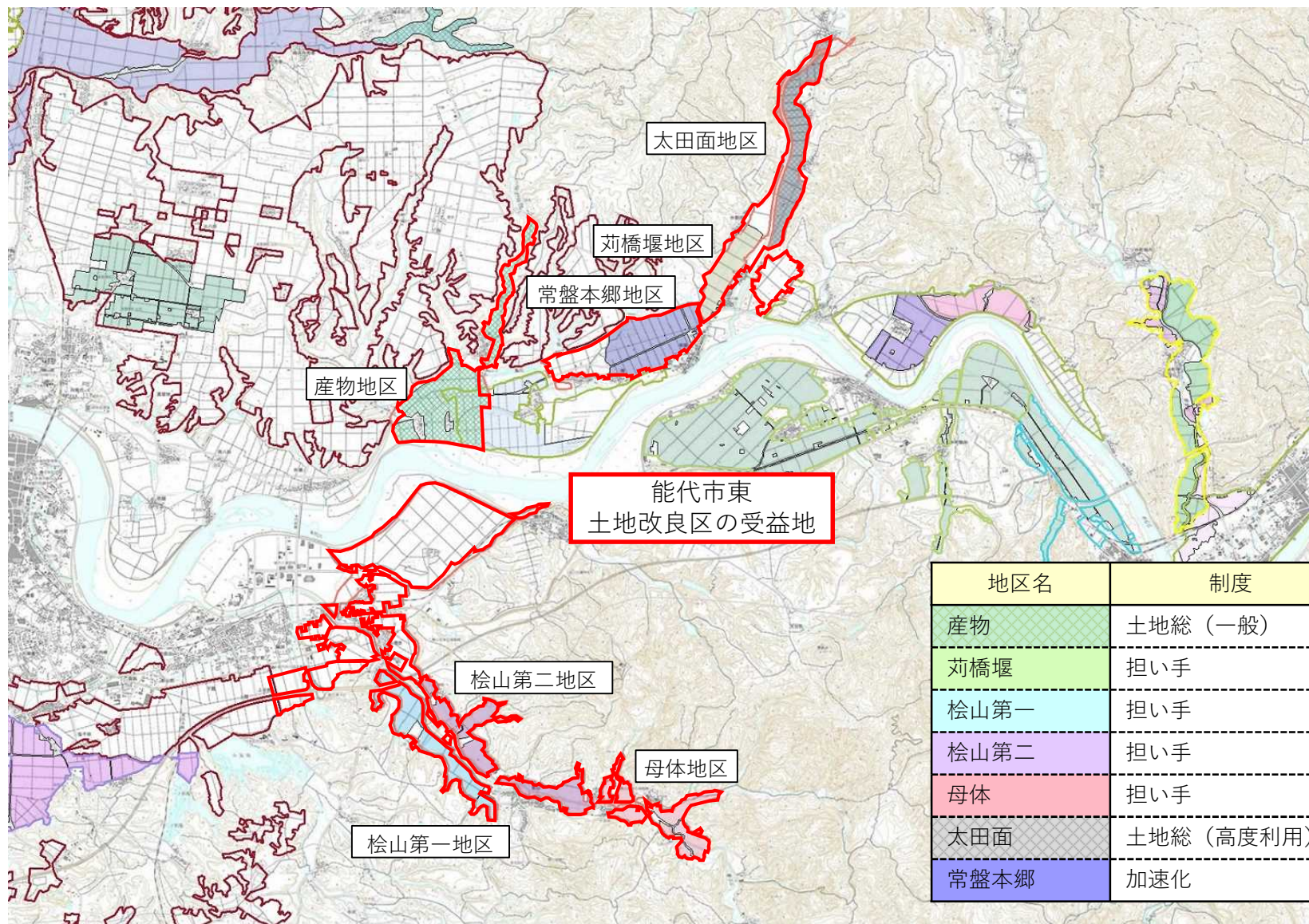
鐘楼は上部・下部の境に変形した疑宝珠高欄をつけた縁が廻り、下部には袴腰をつけている。上部がやや縦長の地方色に富む建物となっている。建立年代は組物の様式から

山門は文化十五年（一八一八）建造で、二階は禅宗様高欄に花頭窓がつき、一階の四隅に獅子の木鼻をつけている。

- 土地改良区受益地の大半は「羽州いなほ会広域活動組織管理協定運営委員会」にカバーされている。
- 土地改良区は「羽州いなほ会広域活動組織管理協定運営委員会」の構成員であり、事務を受託している。



- 米代川の北岸部では、産物・苧橋堰・太田面・常盤本郷の順に、概ねのエリアにおいてほ場整備が実施されてきた。
- 米代川の南岸部では、桧山第一、桧山第二、母体といった沢部において事業が実施されてきたが、米代川沿いでは未実施となっている。



地区名	制度	工期	受益
産物	土地総（一般）	H7～H9	107 ha
苧橋堰	担い手	H12～H18	50 ha
桧山第一	担い手	H12～H17	57 ha
桧山第二	担い手	H13～H18	61 ha
母体	担い手	H14～H19	45 ha
太田面	土地総（高度利用）	H14～H19	60 ha
常盤本郷	加速化	H18～H25	99 ha